

郷土の誇り西原秀一さんへ

西原秀一さん、私たちは今日あなたを偲ぶためにここに集いました。

あなたは戦前、自由のない暗黒の時代に、戦争に反対し、平和と民主主義の日本をめざして命をかけてたたかいました。そのため、特高に逮捕され、拷問によって、体が衰弱し、重病となりました。獄死を恐れた警察は、あなたを仮出獄させましたが、家族の看護のいかにもむなしく、二十九歳の若さで命を失いました。

あなたが無念の死を遂げられてから八十年の歳月が流れました。この間、侵略戦争によって、多くの国民とアジアの人々が犠牲となりましたが、戦後、新しい平和憲法が誕生しました。そこにあなた方が望んだ戦争反対、国民主権、男女平等、思想と表現の自由、基本的人権などが明記されました。あなた方のたたかいこそ、正義と人類愛に満ちた、歴史の進歩の方向であったことが証明され、私たちは、日本人としての誇りを保つことができました。

あなた方がわずか4人で始めた岡山県の党組織は、今や、五〇〇支部六五〇〇人と大きく成長しています。全国では二万二千の支部、四十二万人の党員となっています。琴東学区にも支部があり、元気に活動しています。

しかし、あなた方が夢見た平和と民主主義の日本は、いまだ実現していません。昨年の総選挙で、永年続いた自民公明の政権が崩壊し、政権交代が起こりました。しかし、依然として、大企業本位、アメリカ追随の政治から抜け出せず、そのため、金権腐敗と混沌の政治が続いています。

今年、夏に参議院選挙があります。この選挙でなんとしても共産党の躍進をちととり、「国民が主人公」の政治へ大きく前進させたいと決意しています。西原秀一さん。私たちは、あなた方の志をしっかりと引き継ぎ、さらに党を大きくし、支持者を増やし、運動を広げて、新しい日本の歴史を切り開いていくために奮闘します。そのことをあなたの墓前に誓います。

墓前には、あなたが、獄中から愛する妹に送った短歌を後援会長が色紙に書いて供えてくれました。この歌にこめられたあなたの思い、あなたが願った故郷の人々の幸せのために、力を尽くします。

秀一さん、あなたが育った瀬戸の海辺には、今日たくさんのカモメが舞い降りています。私たちは、いつもあなたを身近に感じています。時には海を渡る風になり、時には波にきらめく光になり、時には夜空に輝く星になって、どうかいつまでもわたしたちを見守ってください。

二〇一〇年三月六日第一回春待忌

琴東学区日本共産党後援会事務局長 長畑 龍介